

文化生活部

bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

文化

Cu

熊本市の出版NPO団体「伽鹿舎」が、昨年末に再出版したフランス小説「幸福はどこにある」(フランソワ・ルロール著)。小説が原作の映画「しあわせはどこにある」が19日に同市で再上映され、記念して小説の日本語訳を担当した翻訳家の高橋啓さん(62)=北海道帯広市=が初来熊した。翻訳家の仕事や再版の意義について語った。

高橋さんは、フランス小説界最高の名誉であるゴンクール賞作家パスカル・キニャールの翻訳の

「しあわせはどこにある」熊本市で再上映

原作小説を翻訳した高橋啓さん

第一人者。『博覧強記』とも言われるキニャールの10作品以上を手掛けてきた。仕事について「ほとんど大学の教師がやっていて、私は特殊なケース」と笑う。ただ「文学は生き物。大学に所属しているには温室育ちにならぬ」と厳しい。

翻訳で大切なのは「行間を読むこと」であり「どう読むか」。「自分の主観ではなく、作者の『根拠』が見えてくるまで読む」と話す。30年を超える翻訳のプロでも何種類も辞書を繰る。「語句の意味を調べるというよ



「翻訳家の仕事は演奏家に似ている」と話す高橋啓さん
=熊本市

たかはし・けい 北海道帯広市出身。早稲田大第一文学部卒。アルジェリアの現場通訳や翻訳会社勤務を経て独立。手掛けた翻訳は70作品に上る。2014年、ツイッター文学賞(翻訳部門)と本屋大賞(翻訳小説部門第1位)受賞。

「幸福はどこにある」が、昨年末に再出版したフランス小説「幸福はどこにある」(フランソワ・ルロール著)。小説が原作の映画「しあわせはどこにある」が19日に同市で再上映され、記念して小説の日本語訳を担当した翻訳家の高橋啓さん(62)=北海道帯広市=が初来熊した。翻訳家の仕事や再版の意義について語った。

第一人者。『博覧強記』とも言われるキニャールの10作品以上を手掛けてきた。仕事について「ほとんど大学の教師がやっていて、私は特殊なケース」と笑う。ただ「文学は生き物。大学に所属しているには温室育ちにならぬ」と厳しい。

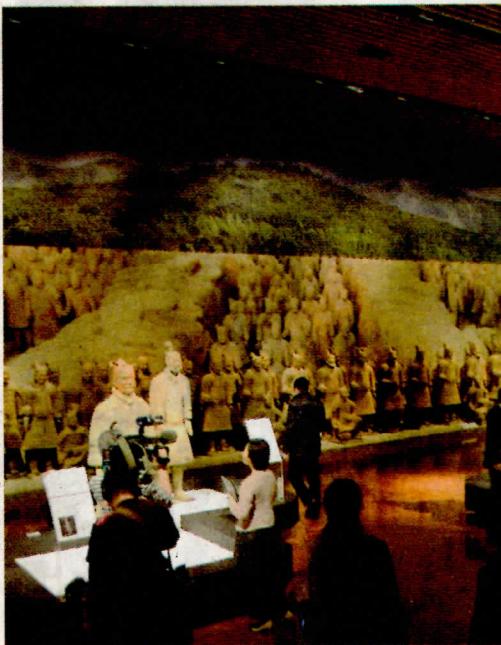
翻訳で大切なのは「行間を読むこと」であり「どう読むか」。「自分の主観ではなく、作者の『根拠』が見えてくるまで読む」と話す。30年を超える翻訳のプロでも何種類も辞書を繰る。「語句の意味を調べるというよ

作家と一体化 行間読む作業

くなったわけではないが、いまフランス文学の本は売れない」と高橋さんは。大手出版社が外国語文学作品を刊行するポイントについて「売れそうなもの、作家が大物、そして翻訳者の熱意」と指摘。名著の再版もままならない状況だ。だからこそ「幸福はどこにある」の再版は「奇跡的なことなんです」と強調する。

のあらゆるところで「潮流が変わってきた」と言う。よく目を凝らさないと見えない動き。「そこを見なきゃいけない。もっとみんな生意気で、反骨精神にあふれていいのに」。高橋さんの視線の先で、面識もないのに再版を「直談判」した伽鹿舎の加地葉さんが笑った。(飛松佐和子)

兵馬俑坑をイメージした会場。10体の兵馬



▲跪射俑の後ろ姿

◀跪射俑の足裏。滑り止めの模様まで忠実に表現している

スロープからば、会場全体が俑坑に見えてくる。

皇帝と大兵馬俑」は6月12日まで。

※九州国立博物館特別展